

小学五年

適性検査A

解答と解説

1

問題一【例】	
に	知
も	識
の	と
の	し
見	て
方	バ
も	ラ
偏	ン
っ	ス
た	が
も	崩
の	れ
に	て
な	、
り	知
や	ら
す	な
い	い
	う
	ち

40 20

問題二【例】		
気	最	も
が	初	う
つ	読	一
く	ん	度
こ	だ	読
と	と	み
が	き	た
あ	に	い
る	は	本
。	気	を
	が	じ
	つ	っ
	か	く
	な	り
	か	読
	っ	む
	た	こ
	こ	と
	と	で
	に	、

50 40 20

問題三						【例】
う	ち	味	現	が		
ま	を	わ	実	多	私	
く	を	え	で	い	は	
と	思	て	は	。	物	
れ	い	面	体	な	語	
る	や	白	験	ぜ	の	
よ	る	い	で	な	登	
う	練	か	き	ら	場	
に	習	ら	な	、	人	
な	に	だ	い	登	物	
る	な	。	よ	場	に	
か	、	そ	う	人	な	
ら	人	し	な	物	り	
だ	と	て	こ	に	き	
。	の	、	と	な	っ	
	コ	そ	で	り	て	
	ミ	の	も	き	本	
	ユ	体	、	っ	を	
	ニ	験	体	て	読	
	ケ	は	験	読	ん	
	ー	他	し	み	で	
	シ	人	た	進	い	
	ヨ	の	気	め	る	
	ン	気	分	る	こ	
	を	持	を	と	と	

150 100 25

2

問題											【例】
れ	の	て	は		盗	人	な	い			ど
ず	成	反	、	わ	難	と	い	て			ん
に	功	省	失	た	や	し	財	い			な
い	に	し	敗	し	火	て	産	け			と
ろ	つ	、	を	の	事	生	で	る			き
い	な	あ	し	い	な	き	あ	力			で
ろ	が	れ	た	ち	ど	て	る	が			も
な	る	こ	れ	ば	で	い	。	筆			、
こ	か	れ	考	ん	失	か	な	者			自
と	ら	考	え	頼	う	な	け	の			分
に	だ	え	て	り	こ	な	ら	い			の
チ	。	や	失	に	と	ら	ば	ち			境
ヤ	か	り	敗	し	の	な	ら	ば			遇
レ	ら	方	を	て	な	ら	人	ん			を
ン	、	を	す	い	い	ら	は	頼			よ
ジ	わ	変	れ	目	大	い	独	り			り
し	た	え	、	に	切	か	立	に			し
て	し	る	そ	見	な	ら	し	し			て
い	は	の	の	え	も	だ	て	い			方
き	失	で	原	な	の	。	一	る			向
た	敗	、	因	い	だ	。	人	目			に
い	を	そ	を	財	。		前	に			切
。	お	の	探	産			の	見			り
	そ	後	つ	と			社	え			開
							会				

(配点)  
 ①〔問題一・問題二〕各10点  
 〔問題三〕30点  
 ②〔問題〕50点  
 } 計100点

【解説】

1

問題一 **B1** 情報を獲得する **理由** **関係つけ** **具体・抽象**

⑦ 若い頃は「濫読」すべきです」という筆者の考えの理由を説明する問題です。「濫読」とは「とにかくなんでも読んでみる」という本の読み方です。この「濫読」をしないと「結果的に、非常に偏った分野のものだけを読んできた」と読んではない分野があまりにも多すぎる。知識として、バランスが崩れてしまいう知らず知らずのうちにももの見方も偏ったものになりがち(だ)」として、あまりよくない結果になると筆者は考えていることがわかります。このような結果にならないために「濫読」をすすめているのです。この部分を空欄の前後の言葉とのつながりに気をつけてまとめましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「知識としてバランスが崩れる」と同等の内容が書かれているか
- ② 「知らないうちにもの見方も偏る」と同等の内容が書かれているか
- ③ ①②に過不足がないか
- ④ 表記や表現が正しいか

問題二 **B2** 情報を獲得する **比較** **関係つけ** **具体・抽象**

① 濫読をやめる時期が来(た)後の本の読み方とその効果を説明する問題です。読み方は、——線①の後に「次に何をやるべきか。今度はじっくり読みましょう」ともう一度読みたい、それをもう一回じっくり読んでみる」とあります。「じっくり

読(む)「ことによる効果は、これよりさらに後に「最初読んだときには気がつかなかったことにハッと気がついたりする」とあります。これらの部分を字数制限に合うようにまとめましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 「もう一度読みたい本をじっくり読む」と同等の内容が書かれているか
- ② 「最初に読んだ時には気がつかなかったことに気がつく」と同等の内容が書かれているか
- ③ ①②に過不足がないか
- ④ 表記や表現が正しいか

問題三 **C1** 情報を獲得する **理由** **比較** **関係つけ**

**具体・抽象** **推論**

本を読むとき、どのような読み方をするのか理由とともに自分の考えを表現する問題です。筆者は濫読で知識量を増やした後、じっくり読む方法をとっています。これは、問題二でもふれたように、読み返す方法をとることで、違ったもの見方に気づくことができているからだと筆者は述べています。このような本の読み方以外に、周りの人にすすめられた本を読んで、その人がすすめたと思った理由を探るのを楽しむなど、人それぞれの読み方があります。自分の本の読み方を思い出して、わかりやすく説明できたかどうかを確認しましょう。

書き始める前に、条件がすべて入っているかどうかを確認したり、書くべきことをメモしたりしてから書くなどの工夫をすると、字数の多い作文でも書きやすくなりそうです。

※以下のポイントを中心に見ます。

- ① 自分の本の読み方について書かれているか
- ② ①の読み方をする理由が書かれているか
- ③ ①②に過不足、文や語句の表現、文の意味に誤りがないか
- ④ 段落が問題の指示に従って分けられているか
- ⑤ 解答用紙の使い方が正しいか
- ⑥ 誤字・脱字・送り仮名
- ⑦ 字数制限が守られているか

問題 2

C2 情報を獲得する 理由 比較 関係づけ 具体・抽象

筆者やあなたが、いちばん頼りにしている目に見えない財産とは何か、理由とともにそれぞれ説明し、表現する問題です。

第一段落では、筆者の考えを書きます。「どんな立場に置かれても、自分の境遇をいつもよりよい方向に向けて切り開いていける力、それがいちばん大切なことだと思う」とあります。これが筆者の考える、いちばん頼りにしている目に見えない財産です。このように考える理由は、これより前に書かれています。「私たちは、それぞれ独立して一人前の社会人として生きていかなければなりません。一人前の人間とは、だれかに頼って生きるのではなく、自分の力で暮らしていかなければならぬ」という部分です。自分の力で暮らしていける力が必要だから、いちばん頼りになる財産を、人生を切り開いていく力だとしているのです。

第二段落では、あなたの考えを説明します。衣食住を得るにしても、働くにしても一人では成し得ないものなので、人と人とのつながりがいちばん頼りになる財産であるなど、さまざまなものと考えられます。理由とともに説明することで、あなた

の考えを受け取る人が納得しやすくなります。日常の中でも、自分はなぜこのように考えるのだろうと疑問を持ち、言葉にしておくとういでしょう。

この問題では、筆者の考えを第一段落に、あなたの考えを第二段落に書くことが条件に書かれています。問題ごとに条件やきまりが異なるので、問題をよく読むようにしましょう。

※以下のポイントを中心に見ます。

第一段落

- ① 「筆者がいちばん頼りにしている目に見えない財産は、どんな状況でも、自分の境遇をいつもよりよい方向に向けて切り開いていける力である」と同等の内容が書かれているか
  - ② 「①の理由として」独立して一人前の社会人としていきていかなければならないから」と同等の内容が書かれているか
  - ③ ①②に過不足、文や語句の表現、文の意味に誤りがないか
- 第二段落
- ④ あなたがいちばん頼りにしている目に見えない財産が書かれているか
  - ⑤ ④の理由が書かれているか
  - ⑥ ④⑤に過不足、文や語句の表現、文の意味に誤りがないか
- 全体
- ⑦ 段落が問題の指示に従って分けられているか
  - ⑧ 解答用紙の使い方が正しいか
  - ⑨ 誤字・脱字・送り仮名
  - ⑩ 字数制限が守られているか